

編集後記

ここに、びわこ成蹊スポーツ大学研究紀要第15号をお届けすることができ、誠に喜ばしく、お忙しい中、ご協力を賜りました皆様に厚くお礼申し上げます。本紀要は、びわこ成蹊スポーツ大学の研究活動を顕示しており、いわば大学の「顔」ともいえます。また、本号は、昨今のスポーツ事情を背景とした斬新な視点に立つ研究論文を多数掲載しております。どうか、お手にとってご一読いただき、お気づきになったことや様々なご意見をいただければ幸甚です。

研究紀要第15号には、自由研究論文が9編、研究報告が3編、そして、アカデミックアワー研究報告が8編と、実に多彩な研究論文が掲載されております。その中には、本学教員はもとより、本学名誉教授からお寄せ頂いた論文もあり、本学における研究への情熱を絶やさぬことへの激励メッセージもが含まれているように思います。

まずは、本稿のページを捲りながら、スポーツ学の世界をご堪能いただければと思います。

ところで、今年は、オリンピック冬季大会が韓国の平昌で開催され、多くの日本人選手たちの活躍が目立ちました。特に、氷上で繰り広げられましたフィギアスケート男子代表選手の羽生結弦さんやスピードスケートの小平奈緒さん、チームパシュートやカーリング女子など、連日に渡って放映された実況中継は、日本国民を感動の渦へと誘ってくれました。日本勢の活躍に一喜一憂しながら「次は、東京オリンピックだ!」と、その接近に胸躍る思いしております。

ちなみに、我々、びわこ成蹊スポーツ大学の教員の多くは、スポーツ学の学問・研究の徒となり、日々精進を重ねております。もちろん、著名な国際大会での科学的サポートに尽力する先生も少なくはありません。2年後に迎える東京オリンピックに向けて、本学も総力をあげてサポートしたいと願っております。これに向けて、すでに水面下での作業が進行しているに違いありません。次号ではその一端もご紹介できるかもしれません。

本稿をまとめるにあたり、投稿者を始め、多くの方々のご尽力を賜りました。ここに感謝の意を表します。誠に、有難うございました。

査読者氏名：秋武寛，北村哲，黒澤寛己，黒須朱莉，小松猛，坂口慶治，渋谷俊浩，白木孝尚，Steve Jugovic，高橋佳三，多賀谷智子，田中忍，田村徳子，佃文子，豊田則成，中野友博，中道莉央，襦屋光男，橋本和俊，林綾子，林弘典，藤林猷明，藤松典子，股村美里，村瀬陽介，望月聡，山田庸，山本達三，吉川文人，吉倉秀和

びわこ成蹊スポーツ大学 図書・学術委員会 委員長
兼 紀要編集専門委員会 委員長
豊田則成